2019年12月20日@朱雀キャンパス

SDGsカンファレンス

～立命館で取り組むSDGsを考える～

報告者

立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

岸本俊輝 / 中西優奈

田中直人 / 石原来美 / 多田圭吾 / 豊田 真彩

SDGsカンファレンス 主題

2019年度 活動報告

2020年度 活動構想発表

意見交換

2019年12月20日@朱雀キャンパス

2019年度活動報告

活動成果と今後の可能性、来年度に向けての課題

報告者

立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

岸本俊輝 / 中西優奈

2019年度 活動報告

Sustainable Week 2017 - 2019

昨年度の報告内容と成果

SDGsで挑戦をもっと自由に

2019年度 活動報告

Sustainable Week 2017 - 2019

昨年度の報告内容と成果

SDGsで挑戦をもっと自由に

Sustainable Week 2017

はじめよう。僕らの未来デザイン

SDGsを通じて学生の活動の社会的意義を提言

Sustainable Week 2018

We are SDGs leaders,

誰もがSDGsに取り組むリーダーとなり
多種多様な企画を実現

Sustainable Week 2019

Be an Impact Producer,

大学を超えたSDGsネットワークで
地域・社会にインパクトを

2019年度の特徴

学生主体で17の目標全てに

取り組むSDGs体験型イベント

主体的に**当事者がアクション**を起こし

年間を通じてSDGsに取り組む

住友金属鉱山プレゼンツ SDGs交流会

参加人数：51名

- 企業との連携、学生のネットワークを創出

4月25日(木) @ BKC

企画内容

- 構成団体 活動紹介
- 企業のSDGs取り組み紹介
- 活動紹介ピッチ

成果

SW実行委員会を**構成する団体同士の交流**を行うことで、**深いつながり**を得た

エキスポーツ2019

参加人数：314名

- スポーツを軸に、地域に向けてSDGsを発信

5月26日(日) @ BKC

企画内容

- 交流企画
- パラスポーツ体験
- 研究紹介 など

成果

立命館らしい実践を重視した

SDGsを表現することができた

バランスボールでリフレッシュ

日経ソーシャルビジネスコンテスト Meet Up 関西

参加人数：46名

■ 関西の学生がソーシャルビジネスに取り組む機会を

6月8日(土) @ OIC

企画内容

- 起業家講演
- ソーシャルビジネスの取組
- アイデア出し

成果

SDGsに興味関心がある学生が集まり

多様なつながりを生み出した

地球市民会議 (SDGs表現論プレイベント)

参加人数：29名(累計)

- 大学生・若者に向けSDGsマインドを伝える

6月23日(日) @ イタリア会館
6月30日(日) @ グランフロント大阪
7月14日(日) @ BKC

企画内容

- SDGs表現論
- ゲストスピーク
- マイプロワークショップ

成果

SDGsとマイプロジェクト(SDGs表現論)が定着し
SWメンバーの**ファシリテーション能力が向上した**

インパクトゼミsupported by SustainableWeek

参加人数：66名（累計）

■ 若者が集い、語り合い、未来について考える

9月25日(水)　@ まち家オフィス「結」
10月21日(月) @ 朱雀キャンパス
11月2日(土)　@ ここ滋賀
12月12日(木) @ OIC

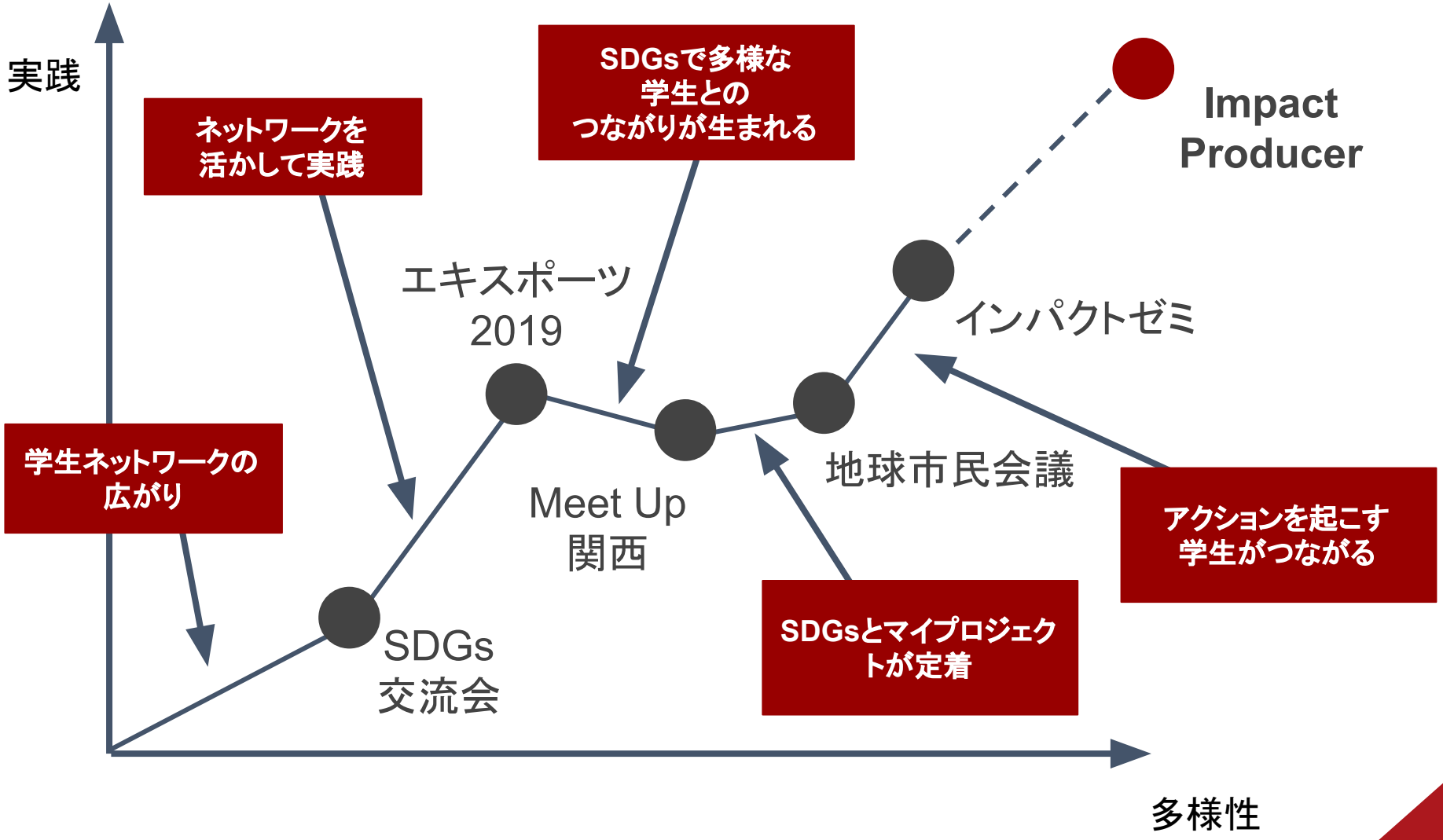
企画内容

- インパクトメーカーによる講演
- My SDGs Actionの発信
- ディスカッション

成果

SDGsとマイプロジェクトの発信を行い
新たなプロジェクトが生まれた

Impact Producerまでのストーリー



全体を通じての成果

大学の資源を地域に還元できた

附属校・高校生との連携の強化

企業と学生団体が共にSDGsに取り組む連携事例に

今後の可能性

マイプロジェクトを地域で育み
新たなインパクトを

偏差値にとらわれない進路選択

企業・行政とのスポンサー契約

2019年度 活動報告

Sustainable Week 2017 - 2019

昨年度の報告内容と成果

SDGsで挑戦をもっと自由に

教養科目 SDGs

■一般教養科目の持つ非経済的価値を可視化する

一般教養科目

非経済的価値

- **ESG**
- **ダイバーシティ経営**
- **健康経営**

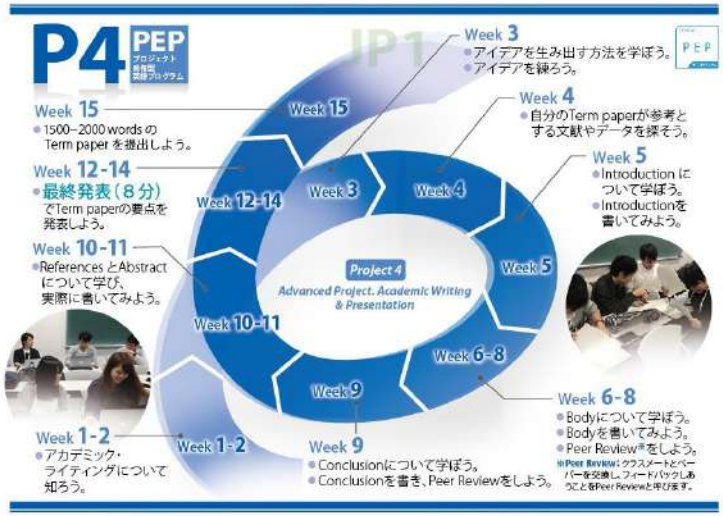
など

選択肢にSDGsの観点を

正課としてのSDGsの展開案

■ 国際部 副部長 山中司 教授と実現に向けて進行中

Project-based English



http://pep-rg.jp/

SDGs表現論

・生命科学部、薬学部を中心に学内4学部での正課英語プログラム

・**受講生が得たスキル**は直接、社会で活かすことができる

・SDGsによる学生の**マイプロの発見**

・パワポ、資料などの**実践力**の習得

・**変化する時代に対応できる情報力**

大学教育へのSDGs導入

正課としてのSDGsの展開

2019年度

・**衣笠キャンパス**にて開講

・SWメンバーが**コーディネート**

・**公開授業**を実施

2020年度

・**3キャンパス展開**

・**受講生がESに**

正課としてのSDGs授業展開案

- オンライン講座(JMOOC)の開講

仮想地球市民会議

- SDGsに関する**オンライン講演会**
- **共に学ぶ空間**を提供する
- **どこでも参加でき、多様性を生み出す**

JMOOC

- どなたでも**受講可能**
- **マイプロジェクト**を実現
- **授業やプログラムでの活用**

学園の強みを生かしてSDGsに取り組む

- 立命館附属高校全てで企画を実施

立命館地球市民会議

・昨年度からの**継続企画**(1校→4校に)

・**大学生のSDGs**の取り組みを知る

・各**附属校の特徴**を生かした内容

リツモリ・インパクトゼミ

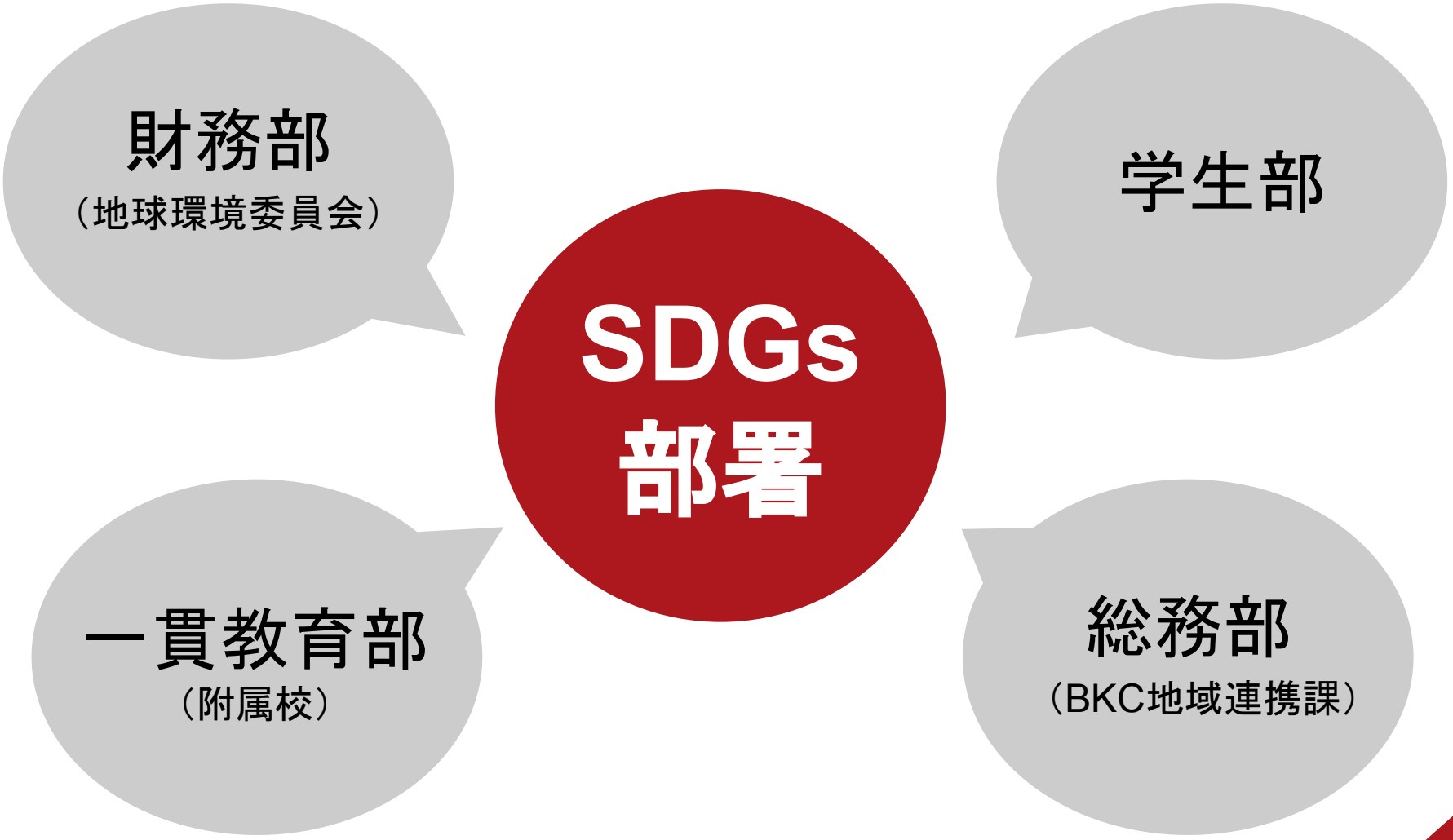
・高校生の**マイプロジェクト伴走支援**

・**一貫教育の発展**の可能性

・大学生とアイデアを考える

SDGsの統括部署を学園中枢に設立

- SDGsに関することを一手に引き受ける部署



SDGs担当部署の設置

- 4月より立命館SDGs推進本部が設立

立命館の中枢に学生の声が届きやすくなった

日本最大のSDGs学園祭の実現

■ 大学・学園からの要請等があると動ける

現学友会中央常任委員長
山本朔（やまもと さく）

・学生団体の声を直接、活動に反映させるのは問題

・SDGsなどの風潮は学友会も取り入れて行きたい

・大学と協働するという形になれば、
学友会として、問題なく活動できる

次期学友会中央常任委員長
山岸真綸（やまぎし まいと）

2020年 学園祭に合わせた
連携を提案予定

日本最大のSDGs学園祭の実現

- 実現に向けての課題が浮き彫りに

本部と登録団体としての関係性

開催目的が異なり合意形成に至らなかった

SDGs推進をする上での
当団体の立ち位置の見直しが必要

2019年度 活動報告

Sustainable Week 2017 - 2019

昨年度の報告内容と成果

SDGsで挑戦をもっと自由に

構成団体・派生団体の活躍

- マイプロジェクトを実現・発展できる環境に

構成団体

COMARS

Enterlibe

Cours de cuisine meRci C'est bon

派生団体

TaBiwa+R

食プロジェクト

Creative Week 実行委員会

甲賀でつながる30日

- 滋賀県甲賀市をフィールドに30日間居住、企画を実施

ガバメントクラウド
ファウンディング
60万円達成

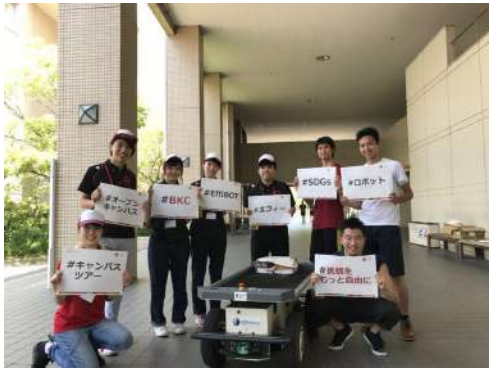
**学生・大学、行政、地域が連携した
関係人口創出による地方創生のロールモデルに**

TaBiwa+R

立命館大学学びのコミュニティ集団形成助成金採択団体。
滋賀県をフィールドに、地域での学生のマイプロジェクトの実現を目指しています。

ロボットの実証実験

- 立命館大学BKCや滋賀県大津市をフィールドに



立命館大学OPENCAMPAS2019
自動運搬ロボットを用いた企画の実施

大津市自動運転バス実証実験
自動お掃除ロボットを使ったサイドイベントの実施

SDGs表現論特別企画
分身ロボットトライアル導入

学生・大学、行政、企業が互いの強みを意識して
地域に根付いたモビリティ・ロボットのあり方を提案・開発

COMARS

立命館大学学びのコミュニティ集団形成助成金採択団体。
BKCや滋賀県をフィールドに「移動をもっと自由にたのしく」をコンセプトに活動しています。

SDGsで挑戦をもっと自由に

SDGsを皮切りに
面白いことに取り組む学生が
あふれる立命館に

私達がSDGsに取り組むために必要なこと

学生団体である
Sustainable Weekが抱える
切実な課題

学生団体としての立ち位置に不安

- SDGsの案件が当団体に集中している

SDGs関連だとなんでもする
と思われている…？

私たちが考えるSDGs推進

- 学園・学生・教職員が一致団結する体制を

定期的なSDGsカンファレンスの開催

学園として取り組むべき
SDGsの取り組みを明確に

団体形態変更に伴う活動支援について

SWの団体形態

2017年、2018年	2019年	2020年
学びのコミュニティー集団形成助成金採用団体	学友会登録団体	未定

SWの主な資金源

2017年、2018年	2019年	2020年
学コミュ集団形成助成金	プロジェクト助成金	協賛金 クラウドファンディング (予定)

2019年12月20日@朱雀キャンパス

2020年度 活動構想発表

今後の展望と学園への期待

報告者

立命館大学 Sustainable Week 実行委員会

田中直人 / 石原来美 / 多田圭吾 / 豊田 真彩

2020年度　活動構想

新規プロジェクト

附属校でのイノベーションワークショップ

企業とのコラボ企画

2020年度　活動構想

新規プロジェクト

附属校でのイノベーションワークショップ

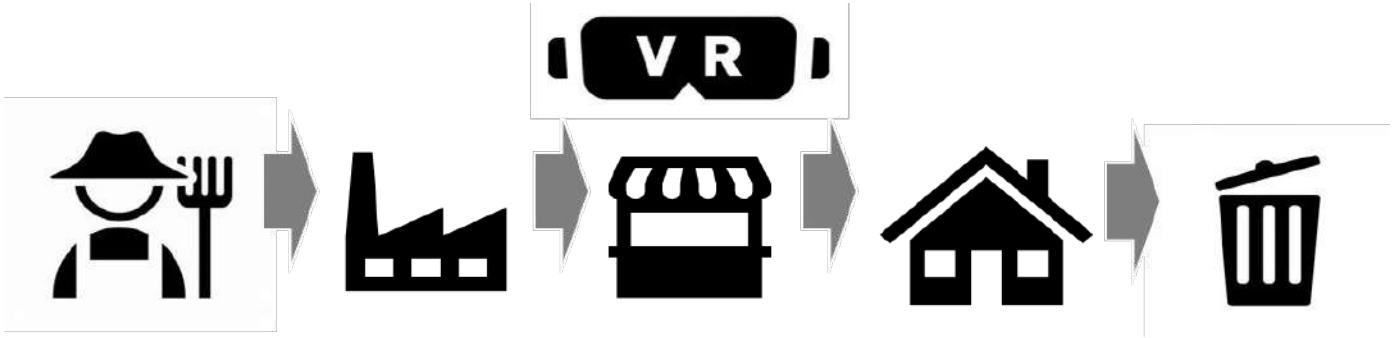
企業とのコラボ企画

食企画のコンセプト

食品ロスを意識を変えることで解決する

Asia Week 2019

食べものがどうつくられているかを食べもの目線で
作成した動画をVRで見てもらう



最後に食べられるのではなく捨てられて締めくくることで捨てられる食べものの気持ちを感じてもらう

VR動画の一部

自分が畑で農家さんの手によって収穫される

トラックで運ばれて出荷される

スーパーマーケットの商品棚に並べられレジに通される

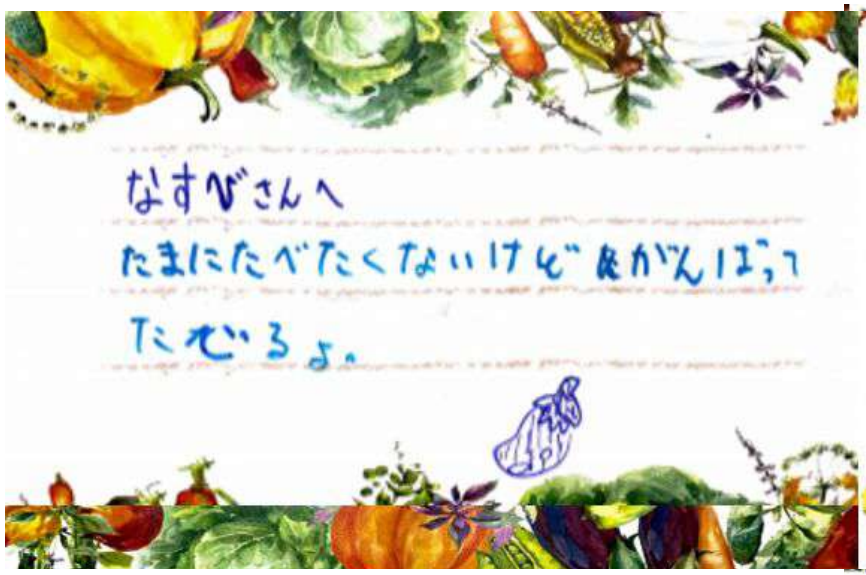
VR動画の一部

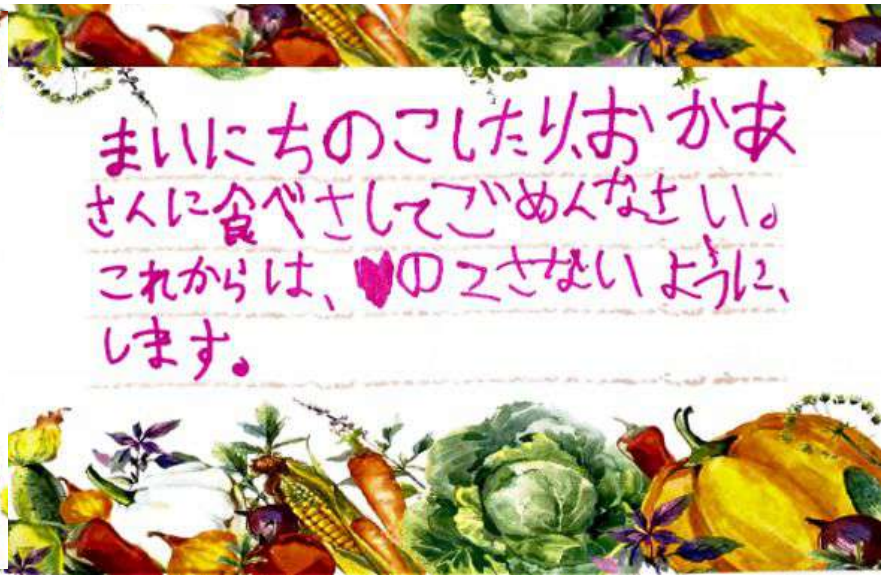
キッチンで調理される

食べ残されてゴミ箱に
捨てられる

捨てられる食べものの気持ち感じてもらい、
その後、今まで捨てたことのある食べもの宛てに
手紙を書いてもらった

野菜あての手紙





手紙からは食品ロスに対する意識が
変わったと感じることができた

課題点と解決策

- 課題点：実際に日常の行動が変わり、フードロス削減につながったかはわからなかった

- 解決策：実際に食品ロスの変化が調査できる可能性のある給食に焦点を当て、小学校または中学校でのワークショップを企画する

これから

小学生にとって身近な給食にフォーカスする

❑考える

給食でいつも残るものやどのくらい給食でフードロスが出ているか、給食を作るのがどれだけ大変かなど考えてもらう。

❑知る

食べものがどうつくられているのかという生産から廃棄までの過程を食べもの目線で撮影した動画を見せることで、捨てられる食べものの気持ちを知る。

❑表現する

自分の思ったことや印象に残ったことを一人一人が紙に書いてもらう。

学校への提案

- 根拠材料として、相手の目線になって物事を考えることがどのような効果を及ぼすのかという既存研究によって裏付ける。

- 年度始まりまでに提案する

EDO×ART×BAR(Sustainable Week 2019)

- **"楽しい"**を通して、**"学び"**に繋げる。

江戸時代
リサイクル職人を
AR演出

ドリンクを使用した
水槽の色が変化する映像演出

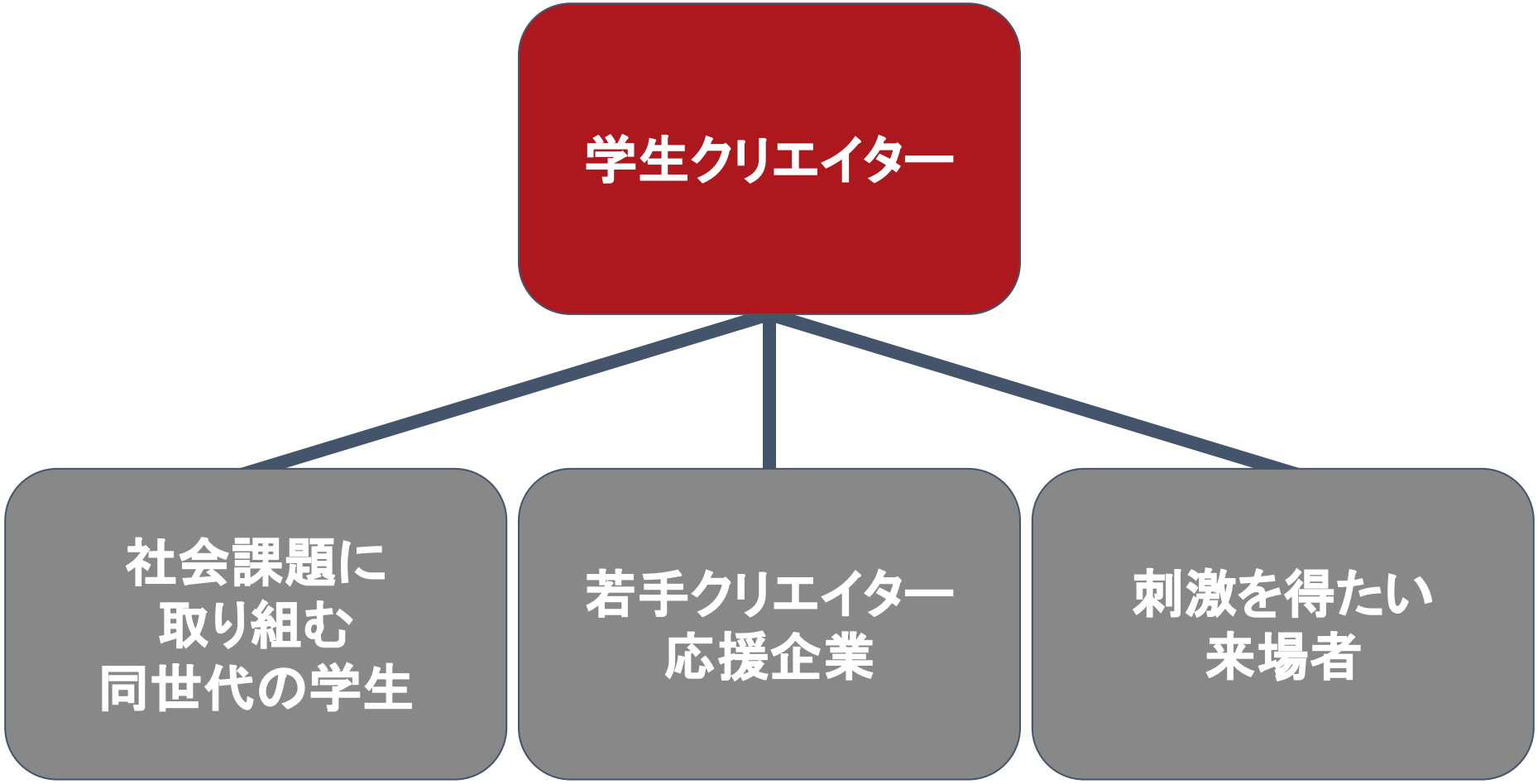
マイプロジェクト

Creative Week

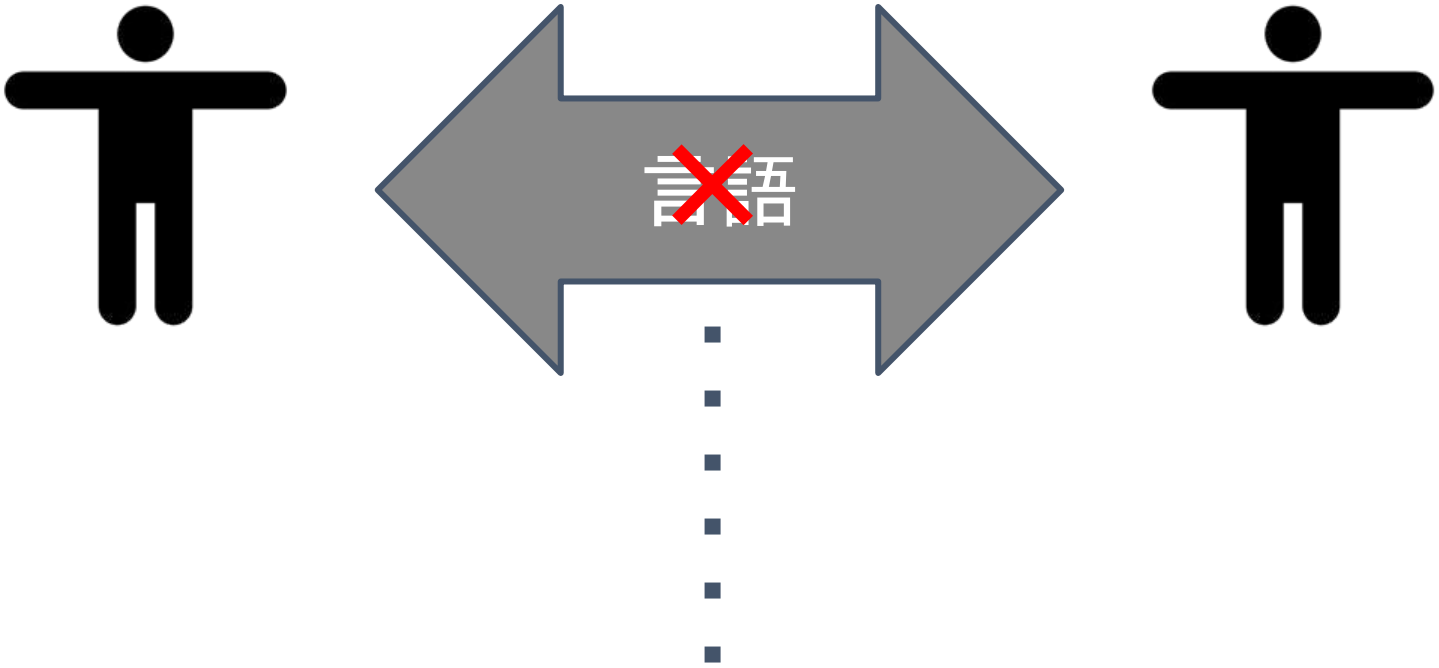
コンセプト

映像の与えるインパクトで巻き込む
プラットフォーム

特徴



理念



言語を介さない"**感動**"

課題

学生クリエイター	もっと自分の作品を見てほしい
企業	未開拓な学生クリエイターを見つけにくい
来場者	やりたいことが言語化できていない

課題

中学校・高校

・協調性重視
・積極性が問われる
・受け身であっても
生活できる。
・嫌でも教えてもらえる。

飛躍

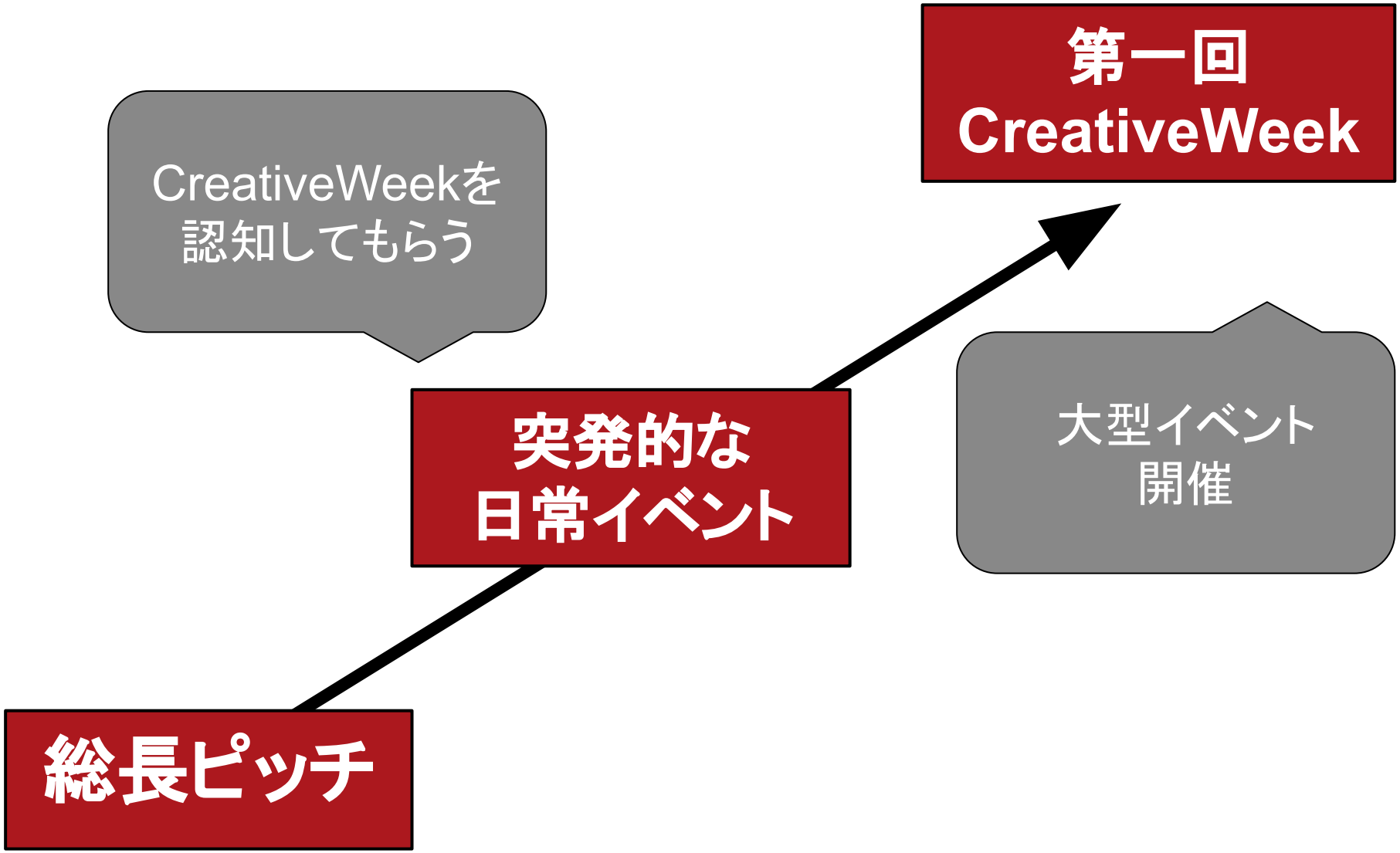
大学

・個性が必要
・主体性が問われる
身では、厳しい。
てくれる人は格段
少ない

目的

- "映像の与えるインパクトが動かす "心"

見通し


第一回
CreativeWeek
CreativeWeekを
認知してもらう
突発的な
日常イベント
大型イベント
開催
総長ピッチ

2020年度　活動構想

新規プロジェクト

附属校でのイノベーションワークショップ

企業とのコラボ企画

附属校でのイノベーションワークショップ

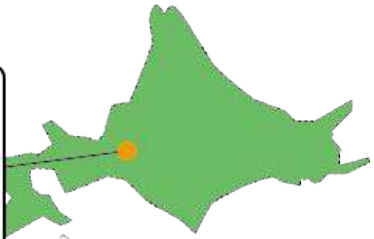
■ 附属中学生・高校生と大学生によるワークショップ

立命館中学・高校

理系コース、文系コース
どちらもグローバル展開
を意識したカリキュラム

立命館慶祥高校

高校生が幅広い進路先を
選択できる充実したコースと
教育環境



立命館宇治高校

試験の点数ではなく、大学
でも通用する学びが身につ
く教育システム

立命館守山高校

グローバル・サイエンス
・ICTの3本を軸にした
一歩先行く教育

効果

お互いが刺激を受け、次のアクションに繋げる
強固な関係が築ける
新しい発想やアイデアが生まれる

2020年度　活動構想

新規プロジェクト

附属校でのイノベーションワークショップ

企業とのコラボ企画

企業とのコラボ企画

SDGs鉱山ツアー

企画内容

- 別子銅山散策
- 生産過程の見学
- ワークショップ

効果

自然の歴史に触れて、これからを考える

住友金属鉱山株式会社様と持続的な関係